

## 咳と少女の命

●冬は風邪の季節。テレビでは風邪薬のCMがここぞとばかりに流れるし、授業中の教室でも、あちらこちらから軽く咳き込む声が聞こえてくる。もちろん電車の中だって、例外ではない。通勤途上の電車でも、いつもであれば風邪を引いている人たちの咳が聞こえてくる。



しかし、今年は見事に通勤電車の中から咳が消えた。いや、電車の中だけではない。駅の構内やスーパーでも一緒のことだ。これだけ一瞬で私たちの周囲から「何かが消える」ことは、やはりある意味考えさせられてしまう。新聞で、電車の中でマスクをしなくて咳をしたら、すごい目で睨まれた、といった投稿をずいぶんと見かけるところからして、この異常さを感じている人は意外に多いのかもしれない。

確かにコロナウィルスは怖いし、一人一人が感染防止の努力をするべきだ。まして人に平気うつして良いとは思わない。お互いが注意を払うことに何の異論もない。

しかし、「自粛」も度を過ぎると、パニックを生み出したり、他者への攻撃を生み出すことをしっかりと認識するべきだ。自粛がさらなる自粛を生み出すという、自粛の増幅がどこかに隠れてはいないだろうか。「世の流れに従わないもの」へのバッシングが生み出される可能性が、そこには潜んでいる。

この「自粛の増幅」は、様々な政治・行政の場面でも、この頃よく目にするものだ。例えば、愛知トリエンナーレへの補助金をなぜか文科省がストップしたこともそうだし、今回のコロナ騒ぎの中、さいたま市が備蓄マスクを学校等に配布した際、なぜか在日朝鮮人学校が対象から外されていたなど。もはや、「自粛の増幅」は、憲法や人権を脅かすレベルまで来ているように思う。

ところで、現在進行しつつある「自粛の増幅」の裏側にあるものは何だろう。

それを「不安」と考えることはできないだろうか。ネットの偽情報を真に受けて、トイレトペーパーの買い占めに走る人たちや、東京都の外出自粛要請によって、スーパーに列を作って、食料品の買い出しに並ぶ人々の心理の裏側は「不安」である。自分がコロナウィルスにかかるのではないかという不安。トイレトペーパーがない不便な生活を自分だけが余儀なくされるのではないか。自分の前に、誰かが全部食料品を買ってしまい、自分のところに回ってこないのではないだろうかという不安！そういう個人的な不安が人々を虜にしている。

世の中で自分だけが取り残されるのではないか、自分だけが損をするのではないか……、そんな社会への不信が心の中で大きくなっていく。

では、この「不安」を生み出しているものとは何だろうか。それこそが政治の不幸さであるような気がする。「感染拡大はこの1～2週間がヤマ場」といつてから、もう一月以上が経つわりには、医療崩壊の危機は叫ばれ続けているし、検査のシステムも向上したようには思えない。それどころか、「首都封鎖」なんて物騒な話も出始めた。以下は人の噂。「政府はコロナ騒ぎの当初は、習近平の訪日を実現するために遠慮して、中国からの入国制限を決断しなかったし、その後はオリンピックの中止をおそれて感染者の積極的な把握に動かなかった。オリンピックの延期が決まってやっと、東京の感染者が爆発的な数で発表されるようになった。もう遅い！」

確かに政府が取り組んだのは、自粛を要請することだけだ！一方では特措法を成立させ、無策なままで、「緊急事態」を宣言したいのか!? そんな不信感さえある。

こう考えると、「不安」を背景にスーパーに走る人たちを、私たちは非難できない。

●しかし、こうしたコロナ騒ぎの一方では、別の深刻な問題も生まれている。つい最近、シ

ヨッキンな話が私たちの地域の先生や子どもたちの口に上った。

それは、隣の地域の駅で、女子高校生が駅のホームから電車で飛び込んで自死した話だ。しかも彼女は、駅のベンチに自分のスマホを立てかけ、飛び込む様子を動画で配信しながら身を投げたのだ。彼女が身を投げた理由や事情は伝わってこない。父親との関係が悪かったなど、噂の域を出ない情報が断片的に伝わってくるだけだ。それでも、皆さんはこの出来事をどのように思うのだろうか。



死を選ぶ以外に道はなかったのだろうか。なぜ動画の形で死にゆく姿を残したのだろうか。なぜ、その姿を不特定多数の人々に向けて配信したのだろうか。

自己の生命としての営みを止める「死」を選んだのではなく、彼女が選択したのは、自分の生命の「破壊」なのではないか。しかも心が痛むのは、自己の肉体を破壊する様子を世の中に残していくという「自虐性」。まるで世の中に復讐しているのかとも思ってしまう。そして何よりも、この行為を誰も止め得ないものだったのだろうか。そしてこの、希望のかけらも見いだすことのできない行為の意味を、いったい誰が引き受けていくのだろうか。

動画で自らの姿を撮影しながら、迫り来る電車の前に身を躍らせた彼女は、非常に特殊な問題を抱えた個人的な存在なのか。それとも、今後第2、第3の「彼女」が現れる、多くの中の一の存在なのだろうか。いや、もうそうした行動に走っている多くの若者たちがいるのかもしれない。

以前にも書いたことがあるが、一時日本の自殺は3万人を超えた。現在は減って2万人を下回ったとのことである。しかし、若者の自殺は減っていない。それどころか10代の子どもの死因第1位が自殺であるという、世界でも日本は特異な国なのである。

忘れてはならないと思う、私たちの社会は若い人たちの命を守れないのだという事実を。

●コロナウィルスという社会的な騒ぎの中で、「不安」は一人一人の心の中に巣くっていった。そして、それと同じように、若者の心の中にも、「不安」や「孤独」や「あきらめ」が広がっているのに違いない。偽情報でトイレトペーパーを求めてスーパーに走る人々を冷やかに非難する前に、すべてを「自己責任」で片づけるエライ人たちに反論ぐらいしたいものだ。過剰な自粛の増幅に、無批判に巻き込まれる大人では、若い人たちの「不安」「孤独」「あきらめ」を理解できはしないと思うのだ。「世の流れに従わない」覚悟が、ちよくちよくと必要とされる世の中になっている。そんな気がする。

## 4～6月前半のEd.ベンチャーの学習会

新型コロナウイルス感染拡大の影響で3月の学習会が延期になり、今後の学習会の開催も、これまでと同じ方法での開催は困難であると判断しました。しかし、他方で、こうした時期であるからこそ、子どもたちのために、考えるべきこと、智慧を出すべきことがあるとも考えます。

そのようなことから、4月22日からの学習会は、Zoomを使ってのWeb学習会を行いたいと考えています。参加ご希望の方は、担当者もしくは事務所に連絡をいただきたくお願いします。Web会議IDとパスワード、資料の受取方について、連絡させていただきます。

**授業研究会** ●4月16日(木)19時～ (Ed.ベンチャーの会員内の学習会として実施)

**外国人の子ども理解のための学習会**

●4月22日(水)19時～(予定) 「国際教室って何をするとところ？」

**理論学習会** ●5月13日(水)19時～ 講演会：学級づくりー子どもが育つ集団をつくるー

**外国人の子ども理解のための学習会**

●5月20日(水)19時～ 事例研究会

**インクルーシブな社会を目指す学習会**

●5月27日(水)19時～ 障がい者を取り巻く社会の歴史を知る：「青い芝」の運動に学ぶ

**理論学習会** ●6月6日(土)19時～ 小学校教員による実践報告会：

支援が必要な子・弱い立場の子どもと周りの子をつなげる実践

【理事の一言】2月28日金曜日、急な休校における学校は不安と混乱の中でありました。子どもたちの日常がこの先どうなっていくのか、先が見えない中での下校でした。3月末、久しぶりに学校に登校した子どもたちの姿をみて、正直ほっとしました。友だちと久しぶりに会っていつものように過ごす子どもたちも、どこどなく安心している様子でした。日常こそ、大事だと改めて感じています。企業の工場生産ライン一時停止や、外出自粛の影響を受けた仕事がたくさんあります。家庭への経済的な負担と不安は、今後さらに子どもたちにも影響してくると思うと、家庭や子どもの声にもっと耳を傾けなければと思います。(BY)